



Sun Blade™ 6048 モジュラーシステム 設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-3906-10
2007 年 12 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国政府の権利 - 商用ソフトウェア。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

ライセンス契約の条項に従って使用する必要があります。

本書には、サードパーティにより開発された題材が含まれる可能性があります。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, Solaris, Sun Blade X6048 Chassis, Sun Blade, および Sun は Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

Copyright © 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Droits du gouvernement des États-Unis - logiciel commercial. Les droits des utilisateur du gouvernement des États-Unis sont soumis aux termes de la licence standard Sun Microsystems et aux conditions appliquées de la FAR et de ces compléments.

L'utilisation est soumise aux termes de la Licence.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers .

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et sous licence exclusive de X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris, Sun Blade 6048 Chassis, Sun Blade et Sun sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Ce produit est soumis à la législation américaine en matière de contrôle des exportations et peut être soumis à la réglementation en vigueur dans d'autres pays dans le domaine des exportations et importations. Les utilisations finales, ou utilisateurs finaux, pour des armes nucléaires, des missiles, des armes biologiques et chimiques ou du nucléaire maritime, directement ou indirectement, sont strictement interdites. Les exportations ou réexportations vers les pays sous embargo américain, ou vers des entités figurant sur les listes d'exclusion d'exportation américaines, y compris, mais de manière non exhaustive, la liste de personnes qui font objet d'un ordre de ne pas participer, d'une façon directe ou indirecte, aux exportations des produits ou des services qui sont régis par la législation américaine en matière de contrôle des exportations et la liste de ressortissants spécifiquement désignés, sont rigoureusement interdites.

目次

1. Sun Blade 6048 モジュールシステムの設置準備 1
 - システムの概要 1
 - 設置の概要 4
 - パッケージの内容の確認 5
 - 静電気の防止 7

2. シャーシへのモジュールとオプションの設置 9
 - ▼ サーバーモジュールを設置する 10
 - ▼ NEM を設置する 11
 - ▼ PCI EM を設置する 13
 - 次の作業 14

3. モジュールへのケーブルとデバイスの接続およびシステムシャーシの電源投入 15
 - Sun Blade 6048 モジュールへの I/O ケーブルの接続 16
 - ▼ CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する 16
 - ▼ NEM ケーブルを接続する 17
 - ▼ PCI EM データネットワーク管理ケーブルを接続する 18
 - ▼ サーバーモジュールにドングルケーブルを接続する 19
 - ▼ AC 電源インタフェースに電源ケーブルを接続する 20

システムシェルフへの初めての電源投入 22

次の作業 23

4. Sun Blade 6048 モジュラーシステム管理ネットワークの設定 25

Integrated Lights Out Manager とは 26

事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて 27

CMM ILOM への初期接続の確立 27

初めての IP アドレスの割り当て 28

準備すべき事柄 28

▼ DHCP を使用してはじめて CMM IP を割り当てる 29

▼ CMM に静的 IP アドレスを割り当てる 30

管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信 32

CMM ILOM の Root アカウントのデフォルトパスワードの変更 32

▼ CLI を使用してパスワードを変更する 33

▼ Web インタフェースを使用してパスワードを変更する 33

次の作業 36

索引 37

はじめに

本書『Sun Blade 6048 モジュラーシステム設置マニュアル』では、Sun Blade™ 6048 モジュラーシステムをはじめて設置および設定する方法について詳しく説明します。

本書は、ラックマウント型システムやコンピュータのハードウェアに精通しているシステム設置技術者、およびさまざまなオペレーティングシステムのインストールと設定の経験を持つシステム管理者を対象としています。

本書の構成

第 1 章では、Sun Blade 6048 モジュラーシステムを設置するための準備作業について説明します。

第 2 章では、シャーシにモジュールとオプションを設置する方法について説明します。

第 3 章では、ケーブルおよびデバイスをシステムに接続し電源を投入する方法について説明します。

第 4 章では、Sun Blade 6048 モジュラーシステム管理システムをはじめて設定する方法について説明します。

関連ドキュメント

Sun Blade 6048 モジュラーシステムのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の Web サイトで使用している製品のセクションを参照してください。

<http://docs.sun.com>

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版を入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun 関連ドキュメント、サポート、トレーニング

Sun の部門	URL
ドキュメント	http://docs.sun.com
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

表記上の規則

字体	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上的コンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオブションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade 6048 モジュラーシステム設置マニュアル』、部品番号 820-3906-10。

Sun Blade 6048 モジュラーシステムの 設置準備

この章では、Sun Blade 6048 モジュラーシステムの設置準備について説明します。
次の項目について説明します。

- 「システムの概要」(1 ページ)
- 「設置の概要」(4 ページ)
- 「パッケージの内容の確認」(5 ページ)
- 「静電気の防止」(7 ページ)

システムの概要

Sun Blade 6048 モジュラーシステムシャーシは、各シェルフごとに次の最大構成を含む 4 つのシェルフで構成されています。

- 12 個のサーバーモジュール (ブレードまたはブレードモジュールともいいます)
- 24 個の PCI ExpressModule (PCI EM)
- 2 個の Network Express Module (NEM)
- 2 個の電源モジュール
- 8 個の背面ファンモジュール
- 1 個のシャーシ監視モジュール (CMM)

図 1-1 に、フル構成システムの前面と背面の外観を示します。

図 1-1 システムシャーシの前面と背面の外観

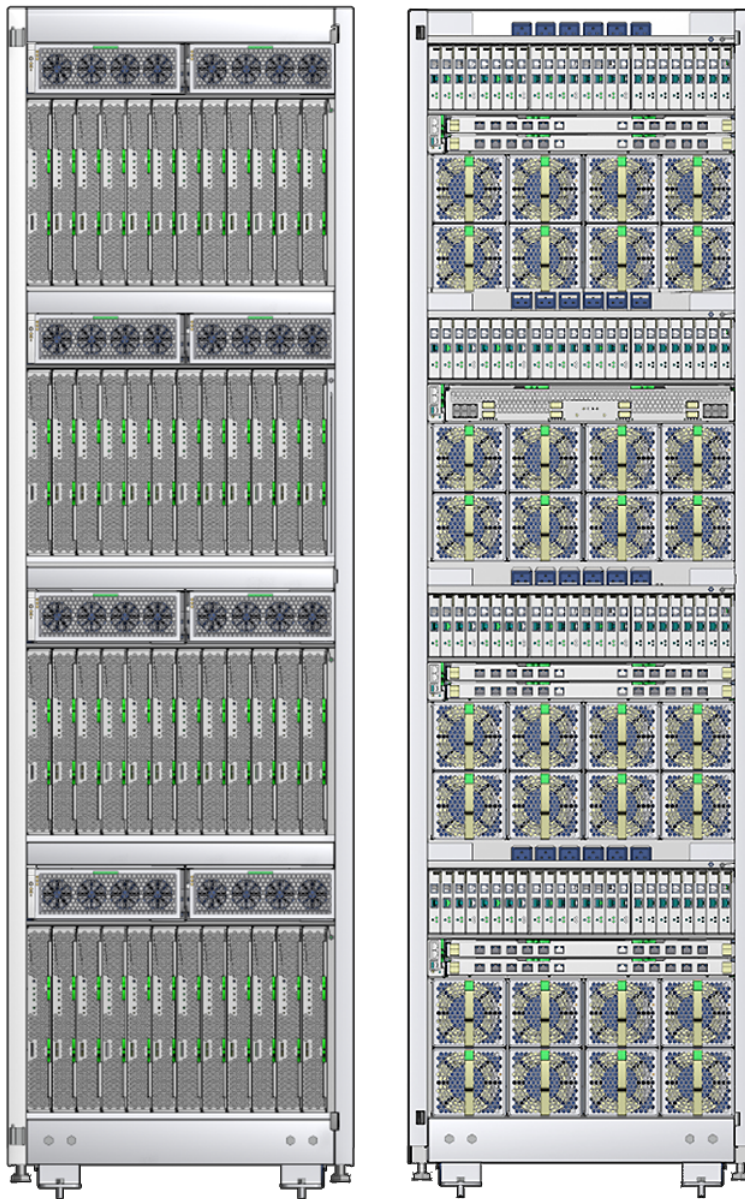
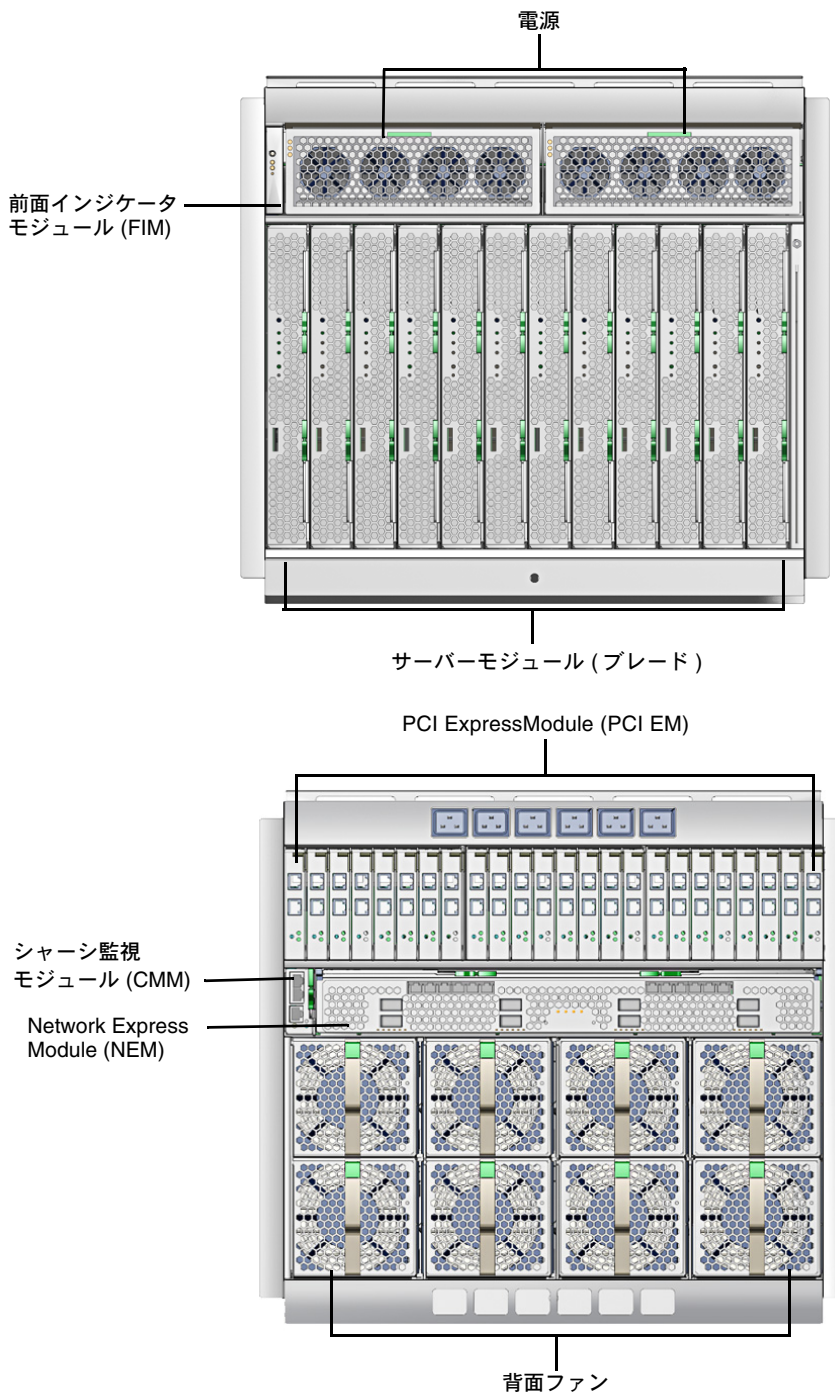


図 1-2 に、フル構成の Sun Blade 6048 シャーシ内の 4 つのシェルフに共通のコンポーネントを示します。

図 1-2 シングルシェルフのコンポーネント



設置の概要

表 1-1 に、Sun Blade 6048 モジュラーシステムのセットアップに必要な作業を示します。本書の手順を開始する前に、手順 1 と 2 を完了する必要があります。

表 1-1 設置作業リスト

手順	作業	情報の場所
1	システムを設置する場所の準備を行い、安全関連のドキュメントをよく読みます。	『サイト計画の手引き』と『Safety and Compliance Manual for Sun Blade 6000 and Sun Blade 6048 Modular Systems (Sun Blade 6000 および Sun Blade 6048 モジュラーシステム安全とコンプライアンスに関するドキュメント)』
2	Sun Blade 6048 シャーシを開梱します。	Sun Blade 6048 Modular System Unpacking Guide (Sun Blade 6048 モジュラーシステム開梱ガイド)
3	出荷されたパッケージの内容を確認します。	「パッケージの内容の確認」(5 ページ)
4	静電気放電を防止するために設置環境の準備を行います。	「静電気の防止」(7 ページ)
5	Sun Blade 6048 モジュールとオプションをシステムシャーシに設置します。	第 2 章
6	ケーブルを接続し、Sun Blade 6048 モジュラーシステムの電源を投入します。	第 3 章
7	IP アドレスを設定して、ネットワーク管理を有効にします。	第 4 章
8	ブレードシステムソフトウェアを設定またはインストールします。	サーバーモジュールのインストールに関するドキュメント

この表のドキュメントはサーバーモジュールのドキュメントを除き、次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.6048mod>

パッケージの内容の確認

Sun Blade 6048 モジュラーシステムの基本機能は、工場で組み立てられ、システムシャーシにあらかじめ設置された状態で出荷されます。サーバーモジュール、Network Express Module (NEM) や PCI Express Module (PCI EM) などのオプションのモジュールは、設置済みの状態で納入されるか、個別に納入されます。次の表で、シャーシパッケージの内容を説明します。

表 1-2 出荷されるシャーシパッケージの内容

項目	説明
Sun Blade 6048 シャーシ	<p>出荷される Sun Blade 6048 シャーシには、次の項目が同梱されています。</p> <ul style="list-style-type: none">• 48 個のサーバーモジュール用フィルターパネルまたはサーバーモジュール (ブレード)• 8 個の NEM フィラーパネルまたは最大 8 個の NEM (12 個のブレードごとに最大 2 個)• 96 個の PCI EM フィラーパネル または PCI EM (12 個のブレードごとに 24 個)• 4 個の設置済みシャーシ監視モジュール (12 個のブレードごとに 1 個)• 8 個の電源装置 (12 個のブレードごとに 2 個)• 32 個の冗長背面ファンモジュール (12 個のブレードごとに 8 個)• 前面および背面のシステムインジケータランプ• シャーシの側面に貼られたサービスカード• 梱包の外側に添付されている『Sun Blade 6048 Modular System Unpacking Guide (Sun Blade 6048 モジュラーシステム開梱ガイド)』

表 1-2 出荷されるシャーシパッケージの内容

項目	説明
アクセサリキット	<p>アクセサリキットには、次のドキュメントが付属しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Where to Find Sun Blade 6048 Modular System Documentation (Sun Blade 6048 モジュラーシステムのドキュメントの場所)』 • Sun Blade 6048 モジュラーシステムセットアップポスター • 『Sun Blade 6048 モジュラーシステム設置マニュアル』 • サーバーモジュールの入出力接続用ドングル • RJ45/DB9 ドングル用シリアルアダプタ • その他の安全およびライセンスに関するドキュメント
カントリーキット	<p>カントリーキットには、Sun Blade 6048 モジュラーシステムの電源コードが付属しています。</p>
その他のオプション	<ul style="list-style-type: none"> • PCI ExpressModule (PCI EM): Sun Blade 6048 シャーシには、最大 96 個の PCI EM を設置可能です (サーバーモジュールあたり最大 2 個またはシェルフあたり 24 個の PCI EM)。 • Network Express Module (NEM): Sun Blade 6048 シャーシには、最大 8 個の NEM を設置可能です (シェルフあたり最大 2 個のシングルスロット NEM または 1 個のデュアルスロット NEM)。 • サーバーモジュール (ブレード): Sun Blade 6048 シャーシには、最大 48 個のサーバーモジュールを設置可能です (シェルフあたり最大 12 個)。

静電気の防止

Sun Blade 6048 モジュラーシステムのマジュールとオプションをシステムシャーシに設置する前に、このセクションの情報を確認してください。



注意 – 内蔵マジュールとオプションは、静電気にきわめて弱い電子部品です。衣服や作業環境から発生する通常量の静電気でも、コンポーネントを破壊する可能性があります。

内蔵コンポーネントのいずれかに接触するときには、静電気による損傷を防止するために次の対策を行います。

- ハードドライブ、サーバーマジュール、サーバーマジュールオプション、NEM、PCI EM などの静電気に弱いコンポーネントは、帯電防止素材の上に置きます。帯電防止素材として、次のアイテムを使用できます。
 - コンポーネントの出荷に使用された袋。
 - ESD マット (部品番号 250-1088、ご購入先にお問い合わせください)。
- 静電気防止用リストストラップ。リストストラップを手首に装着し、もう一方の端をシステムシャーシのアースまたはシステムの金属部分に接地します。

シャーシへのモジュールとオプションの設置

この章では、Sun Blade 6048 シャーシへの新規モジュールと新規オプションの設置方法について説明します。この章の手順と解説図では、Sun Blade 6048 シャーシの 4 つのシェルフの 1 つにモジュールを設置する手順について説明しています。シェルフごとの手順は同じです。



注意 – システムの上部が重くなることを避けるために、下部のシェルフから順にシャーシを設置してください。

このセクションでは次の項目について説明します。

- 「サーバーモジュールを設置する」(10 ページ)
- 「NEM を設置する」(11 ページ)
- 「PCI EM を設置する」(13 ページ)

注 – このセクションは、すでに電源が入ったシステムに設置されている既存のシャーシモジュールやオプションの交換については説明していません。この章の説明では、新規に導入したシステムにまだ電源が投入されていないと想定しています。既存のモジュールとオプションの交換については、『*Sun Blade 6048 Modular System Service Manual* (Sun Blade 6048 モジュラーシステムサービスマニュアル)』(820-2863) を参照してください。

▼ サーバーモジュールを設置する

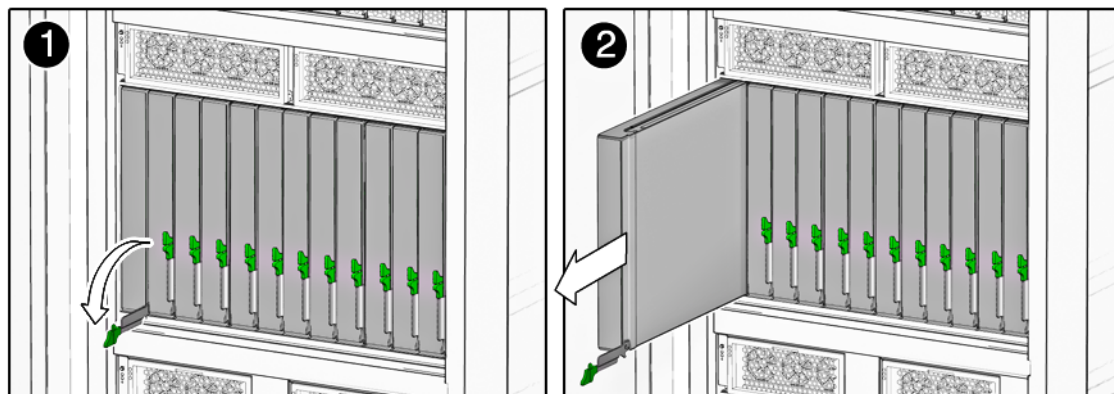
Sun Blade 6048 シェルフには最大 12 個のサーバーモジュールを設置可能です。

スロットからフィラーパネルを取り外し、空いたスロットにサーバーモジュールを設置するには、次の手順に従います。

1. システムシャーシの前面から、サーバーモジュールを設置するスロットを確認します。
2. 必要に応じて、フィラーパネルを取り外します。
フィラーパネルの下方にある取り外しレバーを下方に回して、シャーシからフィラーパネルを取り外します。

図 2-1 に、シャーシから取り外しているフィラーパネルを示します。

図 2-1 フィラーパネルの取り外し

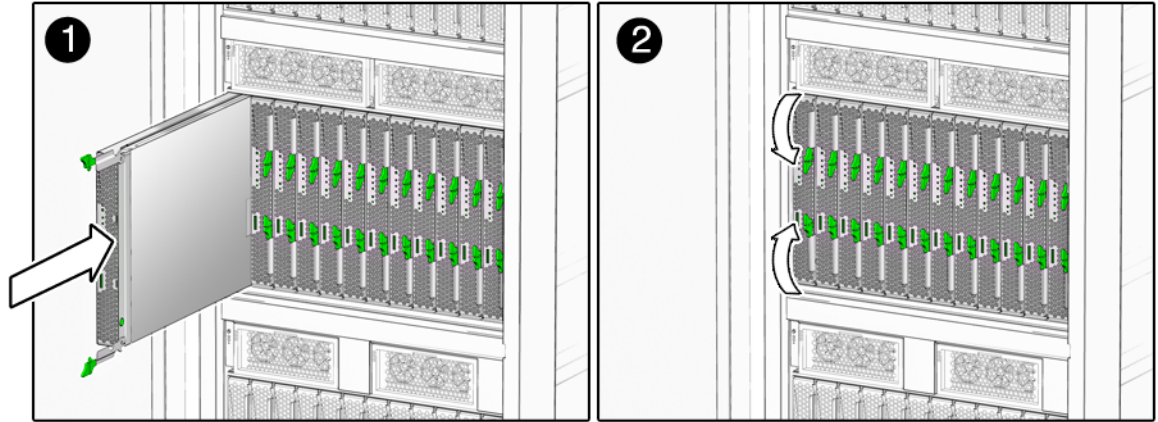


注 - 他のフィラーパネルは、未使用のスロットに残しておく必要があります。

3. エジェクタが右側になるように、サーバーモジュールを縦にします。

図 2-2 を参照してください。

図 2-2 サーバモジュールをシャーシに挿入する



4. ストップに当たるまで、サーバモジュールをスロットに押し込みます。
5. 上の方の取り外しレバーがカチッとはまるまで、下方に回します。
サーバモジュールとシャーシが面一にそろえられ、エジェクタがロックされます。
6. 手順 1 ～ 手順 5 を繰り返して、残りのサーバモジュールを設置します。
7. すべてのサーバモジュールを設置したら、システムのドアを閉じます。



注意 - 電磁波障害 (EMI) に関する規定に準拠するために、製品を通常操作している間はキャビネット前面のドアを閉じたままにしておく必要があります。このドアはサービス作業のために一時的にだけ開く必要があります。

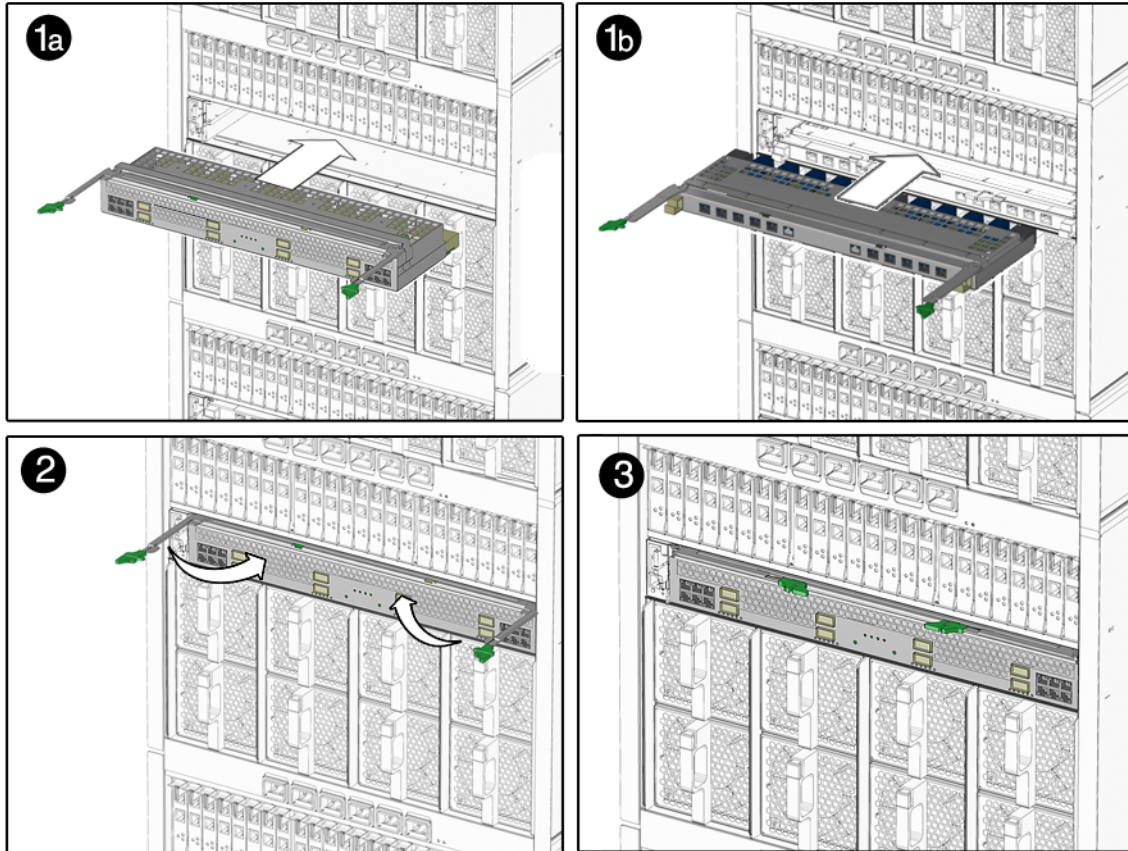
▼ NEM を設置する

Sun Blade 6048 シェルフには、0 ～ 2 個の Network Express Module (NEM) を設置できます。

NEM モジュールは、使用する NEM の種類に応じて、1 つまたは 2 つの NEM スロットを使用します。両方の NEM スロットを使用する NEM の場合は、1 個のモジュールのみを設置できます。1 つのスロットを使用する NEM の場合は、1 個または 2 個の NEM を設置できます。

図 2-3 に、デュアルスロットおよびシングルスロットの NEM の設置方法を示します。

図 2-3 NEM の設置

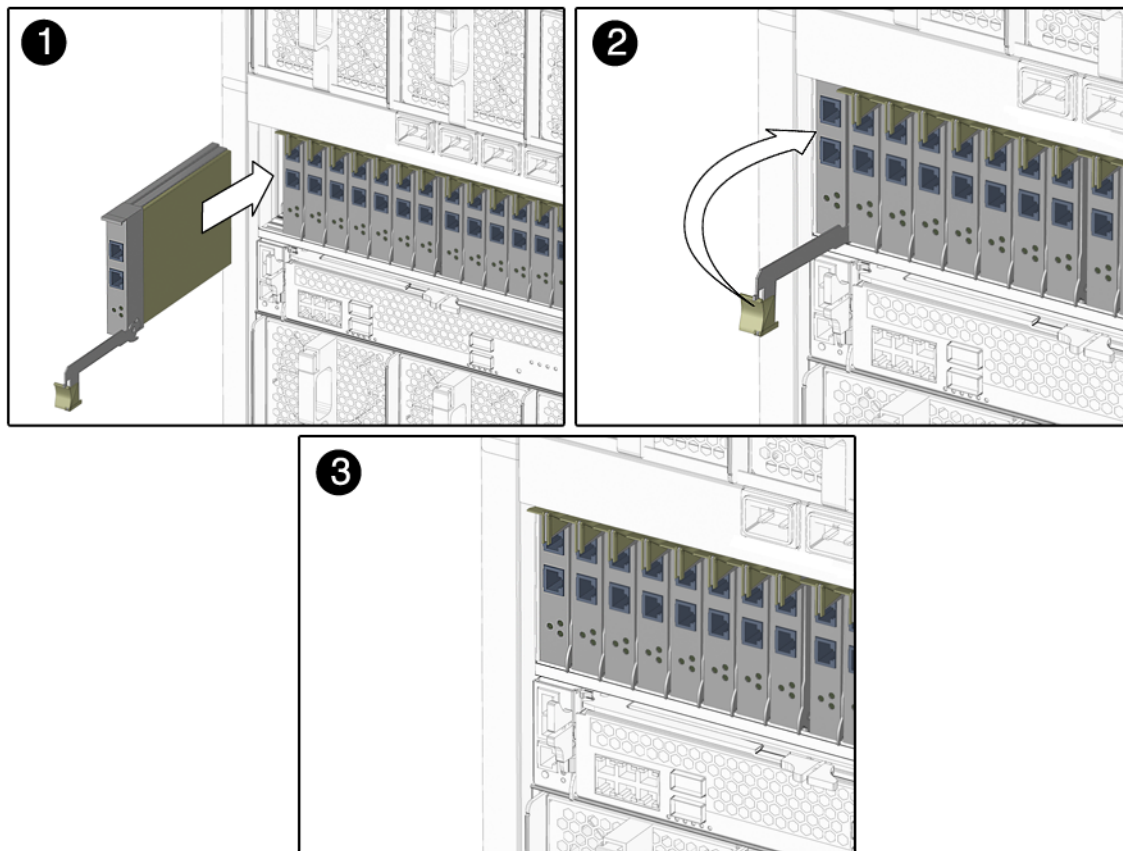


1. NEM を空の NEM スロットの端に合わせます。
NEM の RJ-45 ポートコネクタが作業側に向いていて、エジェクタが NEM の上部にあることを確認します。
2. NEM の取り出しレバーを完全に開きます。
3. NEM が止まるまで、空の NEM シャーシスロットに NEM を押し込みます。
図 2-3 の図 1a にデュアルスロットの NEM、図 1b にシングルスロットの NEM をそれぞれ示します。
4. 取り出しレバーを閉じて、NEM を固定します。
5. シングルスロット NEM をもう 1 つ設置する場合は、手順 1 ~ 手順 4 を繰り返します。

▼ PCI EM を設置する

Sun Blade 6048 シェルフには、最大 24 個の PCI ExpressModule (PCI EM) を設置可能です。PCI EM スロットには、PCI EM 0.0 から 11.1 までのラベルが付けられています。[図 2-4](#) に、PCI EM の設置方法を示します。

図 2-4 PCI EM の設置



1. PCI EM を空の PCI EM スロットの端に合わせます。
PCI EM の前面パネルのインジケータランプが前面を向き、PCI EM 取り外しレバーが完全に開いていることを確認します。
2. 空の PCI EM シャーシスロットに PCI EM を押し込みます。
モジュールをシステムに接続していくと、取り外しレバーが上がり始めます。
3. 最後に取り外しレバーを閉じて、PCI EM をシャーシに固定します。
4. [手順 1](#) ~ [手順 3](#) を繰り返して、残りの PCI EM を設置します。

次の作業

モジュールとオプションを Sun Blade 6048 シャーシの各シェルフに設置したあと、電源ケーブルを接続してシステムの電源を入れます。第 3 章を参照してください。

モジュールへのケーブルとデバイスの接続およびシステムシャーシの電源投入

この章では、AC 電源ケーブルの接続、ネットワークケーブルの管理、および適切なシャーシモジュールへのデータネットワークケーブルの接続の方法について説明します。最後に、システムシャーシにはじめて電源を入れる方法を説明します。

注 – この章の手順と解説図では、Sun Blade 6048 シャーシの 4 つのシェルフの 1 つにケーブルを接続して電源を投入する方法について説明します。シェルフごとの手順は同じです。

この章では次の項目について説明します。

- 「Sun Blade 6048 モジュールへの I/O ケーブルの接続」(16 ページ)
- 「システムシェルフへのはじめての電源投入」(22 ページ)
- 「次の作業」(23 ページ)

Sun Blade 6048 モジュールへの I/O ケーブルの接続

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 「CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する」 (16 ページ)
- 「NEM ケーブルを接続する」 (17 ページ)
- 「PCI EM データネットワーク管理ケーブルを接続する」 (18 ページ)
- 「サーバーモジュールにドングルケーブルを接続する」 (19 ページ)
- 「AC 電源インタフェースに電源ケーブルを接続する」 (20 ページ)

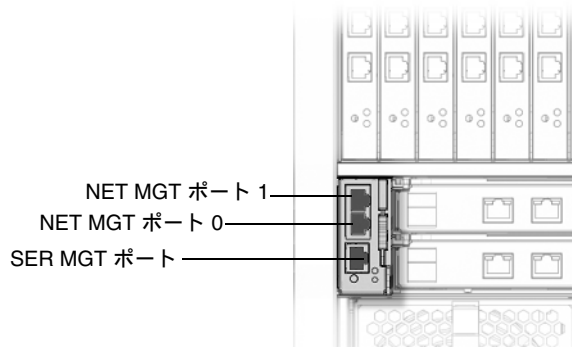
▼ CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する

各シャーシにはシャーシ監視モジュール (CMM) が 1 個設置され、2 つの Ethernet (NET MGT) ポートと 1 つのシリアル管理 (SER MGT) ポートが付いています。このセクションでは、CMM の背面パネルにある管理ポートにローカルエリアネットワークのケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する方法について説明します。

注 – CMM 経由ではなく、サーバーモジュールと直接通信する場合は、Sun Blade 6048 シャーシに付属のドングルケーブルを使用して、サーバーモジュールの前面パネルに、シリアルコンソールを直接接続します。詳細は、サーバーモジュールシステムのドキュメントを参照してください。

1. ネットワーク管理ケーブルとシリアルコンソールケーブルを用意します。

図 3-1 CMM NET MGT ポート



2. CMM の背面パネルにある SER MGT ポートにシリアルコンソールケーブルを接続し、ケーブルのもう一方の端をシリアル端末に差し込みます。
3. Ethernet ケーブルを CMM の NET MGT 0 ポートに接続し、もう一方の端をローカルエリアネットワークに接続します。

注 - NET MGT 1 ポートはデフォルトで無効に設定されています。ILOM を使用してポート 1 を有効にすることができます。詳細は『*Sun Blade 6048 Modular System Service Manual* (Sun Blade 6048 モジュールシステムサービスマニュアル)』(820-2863) を参照してください。

▼ NEM ケーブルを接続する

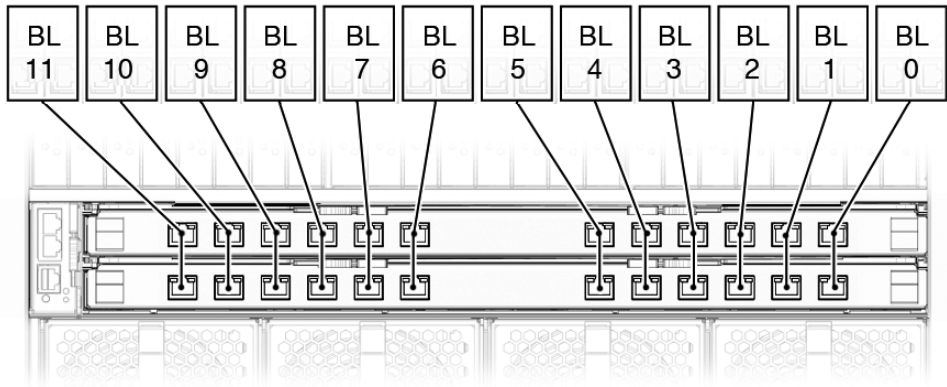
このセクションでは、Network Express Modules (NEM) にケーブルを接続する方法について説明します。

Sun Blade 6048 シャーシの各シェルフには、NEM 0 ~ 1 というラベルが付いた最大 2 個の NEM スロットがあります。下のスロットが NEM 0、上のスロットが NEM 1 です。デュアルスロット NEM は NEM 用のスロットを 2 個使用し、シングルスロット NEM は 1 個使用します。

図 3-2 に、Gigabit Ethernet NEM 上の NEM ポートとブレードがどのように対応するかを示します。

注 - Infiniband NEM の動作の詳細については、『*Sun Blade 6048 Switched InfiniBand Network Express Module User's Guide* (Sun Blade 6048 Switched InfiniBand Network Express Module ユーザーズガイド)』(820-2189) を参照してください。

図 3-2 NEM とサーバーモジュールとの対応



NEM にケーブルを接続するには、次の手順に従います。

1. 設定に必要なケーブルを準備します。
2. ケーブルを NEM の該当するポートに接続します。
3. データケーブルのもう一方の端を適切なデータソースに接続します。

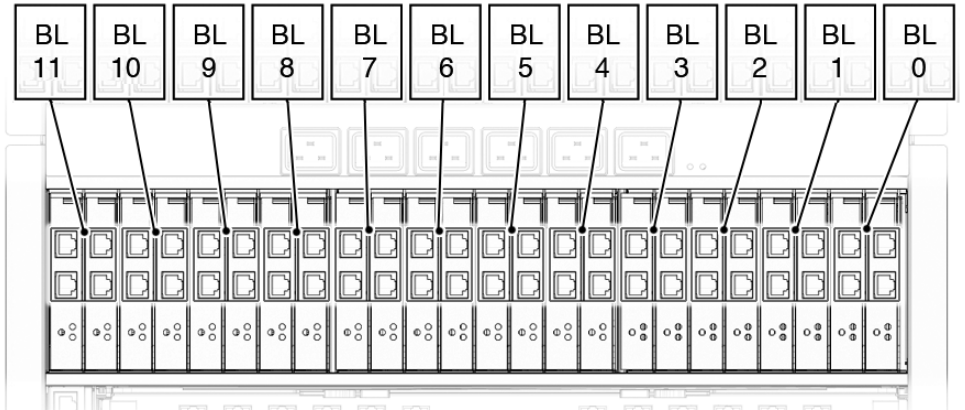
▼ PCI EM データネットワーク管理ケーブルを接続する

このセクションでは、PCI Express Module (PCI EM) にデータネットワークケーブルを接続する方法について説明します。

設置されている各 PCI EM には、2 個の外部データポートがあります。各 Sun Blade 6048 シェルフには、24 個の PCI EM スロットがあり、各サーバーモジュールに PCI EM スロットが 2 個ずつ割り当てられます。PCI EM スロットは、シャーシの背面から見て、右から順に PCI EM 0.0 ~ 11.1 と番号が付けられています。

図 3-3 に、システムに設置されているブレードと NEM がどのように対応するかを示します。

図 3-3 サーバーモジュールと PCI EM の対応



注 次の手順では、各 PCI EM データポートの MAC アドレスをすでに記録していることを前提としています。PCI EM ポートの MAC アドレスは、PCI EM ボードに印字されています。

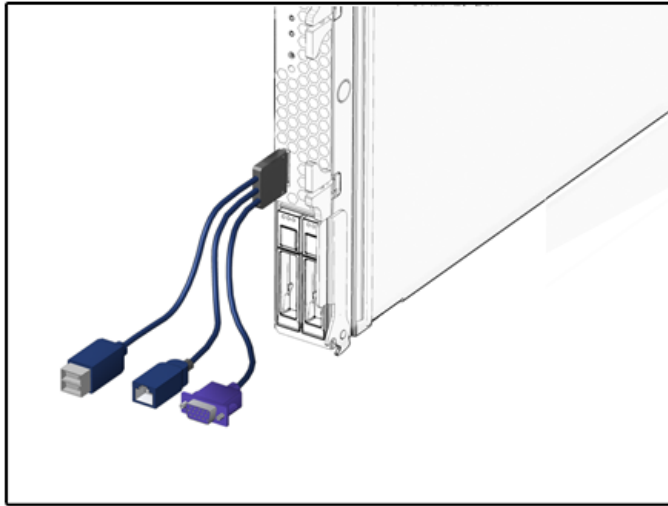
PCI EM のケーブルを接続するには、次の手順に従います。

1. 設定に必要なケーブルを準備します。
2. データネットワークケーブルを適切な RJ-45 データポートに接続します。
3. データネットワークケーブルのもう一方の端を適切なデータソースに接続します。

▼ サーバーモジュールに dongle ケーブルを接続する

完全構成のシェルフには、12 個のサーバーモジュールが設置されます。Sun Blade 6048 シャーシに付属されている dongle ケーブルを使用することで、サーバーモジュールへの USB、シリアル、VGA I/O 接続が可能になります。図 3-4 を参照してください。

図 3-4 サーバーモジュールへの接続用のドングルケーブル



各サーバーモジュールのコネクタについては、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

▼ AC 電源インタフェースに電源ケーブルを接続する

Sun Blade 6048 の AC 電源インタフェースは、システムシャーシのモジュールに主電源を供給します。各 Sun Blade 6048 シェルフには、6 個の電源差し込み口を持つ 2 つの電源モジュールがあります。図 3-5 に、AC 電源差し込み口を示します。

注 - お客様が用意する配電盤 (PDU) に電源ケーブルを接続する前に、Sun Blade 6048 モジュラーシステムの電源要件を確認することをお勧めします。システムの電源要件については、『Sun Blade 6048 モジュラーシステムサイト計画の手引き』(820-3911) を参照してください。

電源ケーブルを接続するには、次の手順に従います。

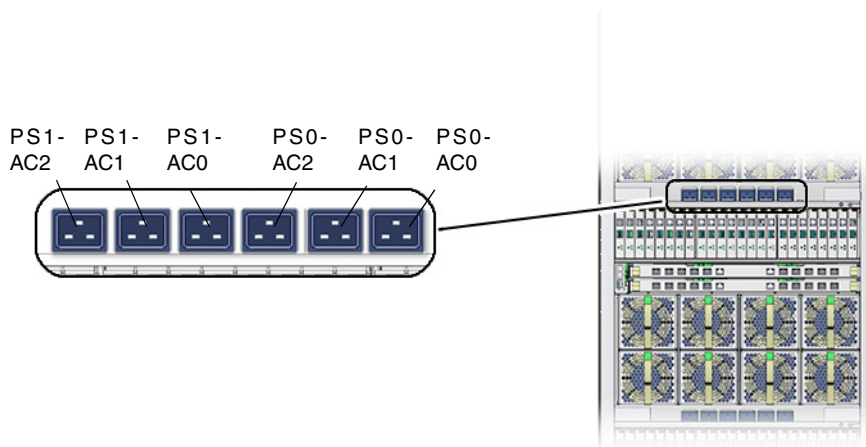
1. キャビネット前面ドアが閉じられていることを確認します。



注意 – 電磁波障害 (EMI) に関する規定に準拠するために、製品を通常操作している間はキャビネット前面のドアを閉じたままにしておく必要があります。このドアはサービス作業のために一時的にだけ開く必要があります。

2. システムに付属の 6 本の電源ケーブルを準備します。
3. シャーシの背面にある電源インタフェースの AC 電源差し込み口の位置を確認します。

図 3-5 AC 電源差し込み口



4. 各電源差し込み口の金属の固定クリップを開きます。
5. シャーシ背面にある PS0-AC0、PS0-AC1、PS0-AC2、PS1-AC0、PS1-AC1、および PS1-AC2 のスロット位置に、6 本の電源ケーブルを差し込みます。
6. 金属の固定クリップで、ケーブルをコネクタに固定します。
7. 電源ケーブルのもう一方の端を配電盤 (PDU) に接続します。
主電源がシステムシャーシに自動的に供給され、CMM の OK 電源 LED と前面のインジケータモジュール (FIM) が点滅します。

注 – 初期設定では、CMM の Integrated Lights Out Manager (iLOM) で、Power-on (電源オン) オプションが有効です。このオプションを無効にすると、AC 電源コードをプラグに差し込んだときに、スタンバイ電源のみがシステムシャーシのシャーシ監視モジュールに供給されます。

システムシェルフへのはじめての電源投入

電源に電力が供給されるとすぐに、システムシェルフに自動的に主電源が供給されます。システムシェルフに電源が入ると、CMM、NEM、サーバーモジュール、PCI EM など、設置されているすべてのモジュールに主電源が供給されます。

注 - このセクションでは、8400 W 電源装置について説明します。その他の電源構成も利用できる場合があります。詳細については、製品ページ (<http://sun.com/blades>) を参照してください。

このセクションでは、システムシャーシとサーバーモジュールに電源が投入されていることを確認する方法を説明します。

システムシェルフへの通電を確認するには、次の手順に従います。

1. 6本の AC 電源ケーブルすべてが電源インタフェースモジュールから電源に接続されていることを確認します。

詳細は、「[AC 電源インタフェースに電源ケーブルを接続する](#)」(20 ページ) を参照してください。

電源装置に電力が供給されると、システムシャーシからシャーシ内のすべてのモジュールに主電源が自動的に供給されます。

2. 主電源がシステムシャーシに供給されていることを確認します。

OK 電源 LED は、緑で点灯します。OK 電源 LED はシャーシの前面と背面にあります。それ以外にもいくつかの電源 LED があります (図 3-6 参照)。

図 3-6 前面電源 LED

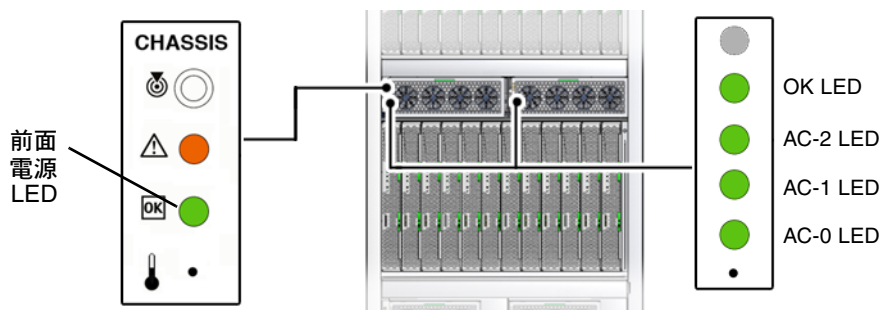
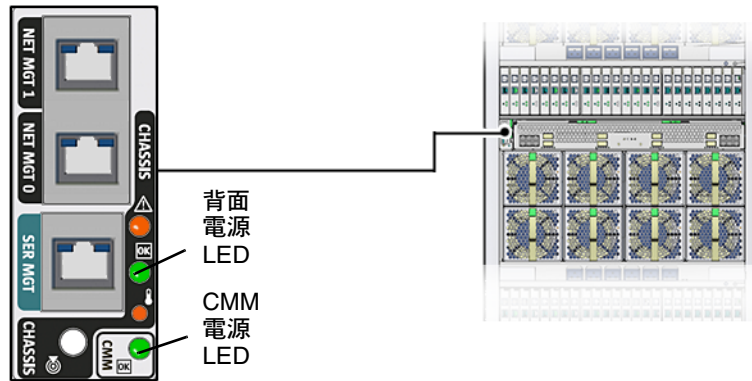


図 3-7 背面電源 LED



注 – サーバーモジュールの電源投入の詳細については、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

次の作業

ケーブルを I/O モジュールに接続したあと、ローカルデバイスをサーバーモジュールに接続して、システムに電源を投入し、CMM とサーバーモジュールの管理ネットワークを設定します。第 4 章を参照してください。

Sun Blade 6048 モジュラーシステム 管理ネットワークの設定

この章では、Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) を使用して、シャーシ監視モジュール (CMM) に IP アドレスを設定する方法について説明します。特に、ILOM を使用して、CMM との接続を確立する詳細手順を示します。そのあと、CMM に静的 IP アドレスまたは動的 (DHCP) IP アドレスを設定する方法について説明します。

注 - この章の手順と解説図では、Sun Blade 6048 シャーシの 4 つのサブアセンブリの 1 つにモジュールを設置する手順について説明しています。シェルフごとの手順は同じです。

この章では次の項目について説明します。

- 「Integrated Lights Out Manager とは」 (26 ページ)
- 「CMM ILOM への初期接続の確立」 (27 ページ)
- 「CMM ILOM の Root アカウントのデフォルトパスワードの変更」 (32 ページ)

Integrated Lights Out Manager とは

Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、Sun Blade 6048 シェルフに設置されたコンポーネントを監視および管理するための内蔵システム管理ツールです。ILOM には、CMM サービスプロセッサによってアクセスします。CMM ILOM では、たとえば、ネットワーク情報の設定、ハードウェア設定の表示と編集、重要なシステム情報の監視、ユーザーアカウントの管理などを行うことができます。

注 - 本書で使用する *CMM ILOM* という用語は、Sun Blade 6048 シェルフ CMM サービスプロセッサ上で動作する ILOM を指します。Sun Blade 6048 シェルフに設置されたサーバーモジュールに固有のサーバー管理システムについては、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。Sun Blade 6048 シェルフに設置される一部のサーバーモジュールは、異なる管理ソフトウェアを使用します。

CMM ILOM は、コマンドラインインタフェース (CLI)、ILOM Web インタフェース、および IPMI からアクセスできます。

有効なユーザーアカウントを持つすべてのユーザーが CMM ILOM にアクセスできます。はじめて CMM ILOM にアクセスするときは、あらかじめ設定した ILOM 管理者アカウントを使用する必要があります。

CMM ILOM で実行できる作業については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188)を参照してください。事前設定の ILOM 管理者アカウントについては、「[事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて](#)」(27 ページ)を参照してください。

事前設定の CMM ILOM 管理者アカウントについて

Sun Blade 6048 シェルフには、次のログイン情報で事前設定された 1 つの CMM ILOM 管理者アカウントが用意されています。

ユーザー名: root
パスワード: changeme

デフォルトのパスワードを変更する以外に、事前設定されている管理者アカウント (root) を変更することはできません。このアカウントは、CMM ILOM 機能やコマンドを使用できる内蔵の管理者特権 (読み込み、書き込みアクセス) を提供します。

はじめて ILOM に CMM レベルまたはサーバーモジュールレベルでアクセスするときは、root として changeme というデフォルトのパスワードを使用してログインする必要があります。CMM ILOM にログインし、システムへの接続を確立したあとで、システムへの不正アクセスを防止するために、ILOM root アカウントのパスワードを変更してください。

ILOM root アカウントのパスワードのリセットについては、[「CMM ILOM の Root アカウントのデフォルトパスワードの変更」\(32 ページ\)](#) を参照してください。

CMM ILOM への初期接続の確立

初期ネットワーク設定情報を使用して CMM とサーバーモジュールを設定するには、ILOM 経由で CMM への接続を確立する必要があります。

CMM に IP アドレスを割り当てるまでは、シリアル接続を使用して CMM と通信する必要があります。CMM へのシリアル接続を確立すると、静的 IP アドレスまたは DHCP IP アドレスを使用して、CMM とサーバーモジュールを設定できるようになります。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- [「はじめての IP アドレスの割り当て」\(28 ページ\)](#)
- [「管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信」\(32 ページ\)](#)

はじめての IP アドレスの割り当て

このセクションでは、次の項目について説明します。

- 「DHCP を使用してはじめて CMM IP を割り当てる」(29 ページ)
- 「CMM に静的 IP アドレスを割り当てる」(30 ページ)

準備すべき事柄

IP アドレスを割り当てる前に、必ず次の設置作業を完了してください。

- Sun Blade 6048 モジュラーシステムの開梱と、ハードウェアとケーブル配線の設定。詳細は、[第 1 章](#)、[第 2 章](#)、および[第 3 章](#)を参照してください。
- Sun Blade 6048 シェルフの CMM の背面パネルにある NET MGT ポートへの Ethernet ケーブルの接続。詳細は、「[CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する](#)」(16 ページ)を参照してください。
- シリアル接続による CMM (またはサーバーモジュール) へのコンソールアクセスの確立。詳細は、「[CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する](#)」(16 ページ)を参照してください。
- 次のシリアル設定。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
- 主電源がシャーシとサーバーモジュールに適用されていることの確認。詳細は、「[システムシェルフへのはじめての電源投入](#)」(22 ページ)を参照してください。

注 – DHCP IP アドレスを割り当てる場合は、Sun Blade 6048 モジュラーシステムと同じローカルネットワーク上に、DHCP サーバーを確立している必要があります。DHCP サーバーの設定はこのガイドの範囲外です。DHCP サーバーソフトウェアに付属のドキュメントを参照してください。

▼ DHCP を使用してはじめて CMM IP を割り当てる

はじめて電源を投入したときに、CMM ILOM は、IP アドレスを求める DHCP 要求をブロードキャストします。DHCP サーバーはこの要求を受け取ると、アドレスやその他のネットワーク情報を供給します。サーバーモジュールに同時に電源が投入されると、サーバーモジュールも DHCP 要求をブロードキャストし、個別の IP アドレスを受け取ります。

注 – サーバーモジュール SP に DHCP アドレスを割り当てる手順については、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

DHCP を使用して IP アドレスを割り当てるには、次の手順に従います。

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されていることを確認します。DHCP サーバーソフトウェアに付属のドキュメントを参照してください。
2. Ethernet ケーブルが、アクティブな CMM の NET MGT ポートに接続されていることを確認します。
 - すでに静的 IP アドレスが設定されていない限り、CMM ILOM は、CMM の MAC アドレスとサーバーモジュールの MAC アドレスの ID を使用して、DHCPDISCOVER パケットを自動的にブロードキャストします。
 - ネットワーク上の DHCP サーバーは、IP アドレスなどの情報を含む DHCPOFFER パケットを返します。CMM は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」状況を管理します。
3. CMM シリアル接続を経由して CMM およびサーバーモジュール SP に割り当てられた DHCP IP アドレスを取得するには、次の手順に従います。
 - a. CMM の背面パネルに接続されたシリアルコンソールを使用して、管理者として CMM ILOM にログインします。

事前設定されているユーザー名は `root`、そのデフォルトのパスワードは `changeme` です。
 - b. 作業用ディレクトリをアクティブな CMM に設定するには、次のように入力します。

```
cd /CMM/network
```
 - c. アクティブな CMM IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
show
```

注 – DHCP サーバーログを使用して IP アドレスを確認することもできます。詳細は DHCP サーバーのドキュメントを参照してください。

▼ CMM に静的 IP アドレスを割り当てる

DHCP サーバーによって提供される動的アドレスの代わりに静的アドレスを使用する場合は、次の時点で静的 IP アドレスを割り当てることができます。

- LAN ケーブルを CMM の NET MGT ポートに接続する前。
- モジュールに DHCP IP アドレスが割り当てられたあと。DHCP によって割り当てられたアドレスを静的 IP アドレスに変更できます。

シリアル接続によって CMM に静的 IP アドレスを割り当てるには、次の手順に従います。

1. アクティブな CMM とのシリアル接続が稼働していることを確認します。
シリアルコンソールを CMM に接続する方法については、「[CMM ネットワークケーブルとシリアルコンソールケーブルを接続する](#)」(16 ページ)を参照してください。
2. 管理者ユーザー名 (デフォルト: root) とパスワード (デフォルト: changme) を入力し、Enter キーを押して、CMM ILOM に管理者としてログインします。
デフォルトのプロンプト (->) が表示され、システムで CLI コマンドを実行してネットワーク設定が行えるようになります。
3. CLI を使用し、LOM によって CMM に静的 IP アドレスを設定するには、次のコマンドを入力して作業用ディレクトリを設定します。

```
cd /CMM/network
```

4. 次のコマンドを使用して、IP、ネットマスク、およびゲートウェイアドレスを指定します。

コマンド	説明および例
<code>set pendingipaddress=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的 IP アドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipaddress=129.144.82.26</code> と入力すると、CMM の IP アドレス、<code>129.144.82.26</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipnetmask=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的ネットマスクアドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipnetmask=255.255.255.0</code> と入力すると、CMM のネットマスクアドレス、<code>255.255.255.0</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipgateway=</code>	<p>このコマンドのあとに、CMM に割り当てる静的ゲートウェイアドレスを入力します。</p> <p>例: <code>set pendingipgateway=129.144.82.254</code> と入力すると、CMM の静的ゲートウェイアドレス、<code>129.144.82.254</code> が ILOM によって割り当てられます。</p>
<code>set pendingipdiscovery=</code>	<p>次のコマンドは、静的 IP アドレスを設定するかどうかを ILOM に対して指定します。</p> <pre>set pendingipdiscovery=static</pre>
<code>set commitpending=true</code>	<p>このコマンド (<code>true</code>) を入力すると、指定したネットワーク設定が割り当てられます。</p> <p>例: <code>set pendingipaddress=129.144.82.26</code> <code>set pendingipnetmask=255.255.255.0</code> <code>set pendingipgateway=129.144.82.254</code> <code>set commitpending=true</code></p>

管理ネットワーク IP アドレスを使用した CMM ILOM との通信

CMM に IP アドレスが割り当てられたあとは、それらの IP アドレスを使用して CMM ILOM と通信します。特に、管理ネットワーク IP アドレスは、CMM のサービスプロセッサに割り当てられた IP アドレスです。

管理ネットワーク IP アドレスのほかに、データネットワーク IP アドレスも付与されることに注意してください。データネットワーク IP アドレスは、サーバーモジュールにホストオペレーティングシステムをインストールしたあとに設定されます。データネットワーク IP アドレスと管理ネットワーク IP アドレスは目的が異なるので、これらを区別することが重要です。

シャールレベルで管理作業を実行する場合は、CMM の IP アドレスを指定する必要があります。サーバーモジュールレベルで管理作業を実行するには、サーバーモジュールサービスプロセッサの IP アドレスを指定する必要があります。

サーバーモジュールの IP アドレスを指定する方法は、サーバーモジュールのドキュメントを参照してください。シャールレベルで実行できる管理タスクについては、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)*』(820-1188)を参照してください。

CMM ILOM の Root アカウントのデフォルトパスワードの変更

次の手順では、CLI または ILOM Web インタフェースを使用して ILOM のデフォルトのパスワードを変更する方法について説明します。

新しいユーザーアカウントの作成と、ユーザーアカウントへの役割 (特権) の割り当てについては、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)*』(820-1188) および設置したサーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

▼ CLI を使用してパスワードを変更する

パスワード `changeme` を変更するには、次の手順に従います。

1. CMM の背面パネルに接続されたシリアルコンソールを使用して、ログインプロンプトで管理者として CMM ILOM にログインします。
事前設定されているユーザー名は `root`、そのデフォルトのパスワードは `changeme` です。
2. 次のように入力して、CMM のパスワードを変更します。

```
set /CMM/users/root password=password
```

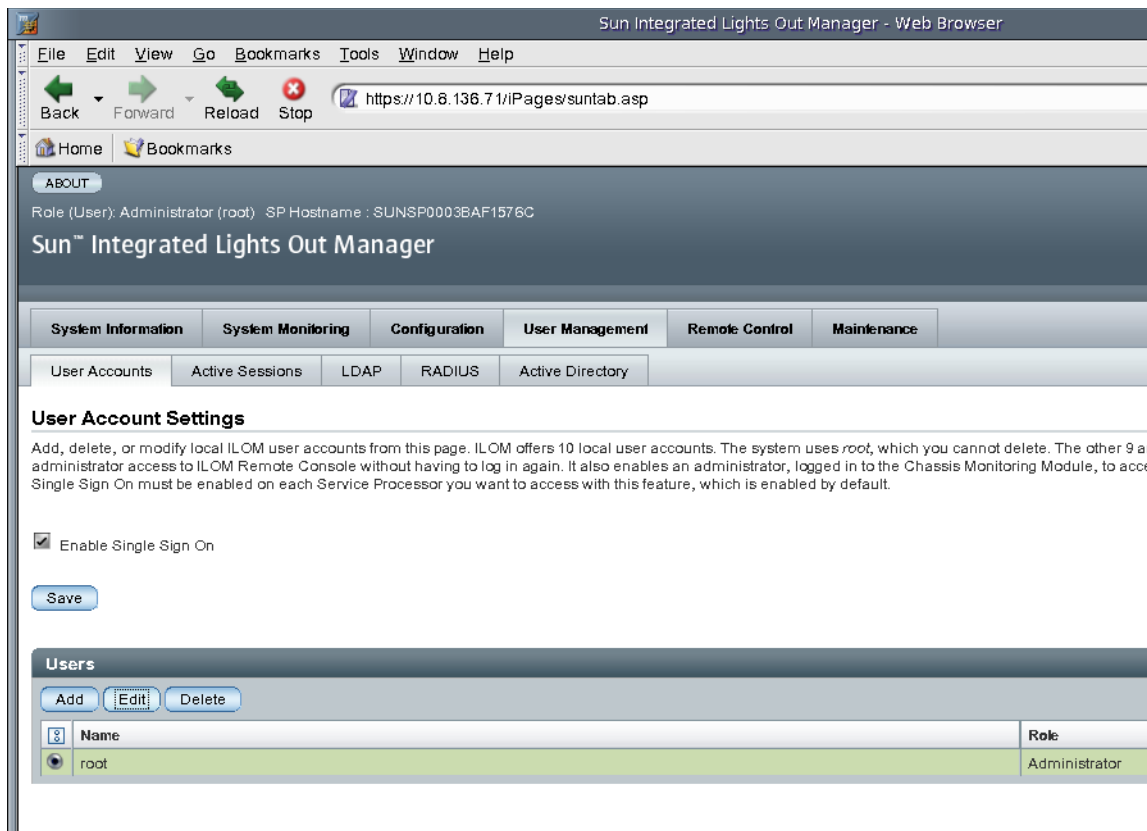
`password` は、新しく割り当てるパスワードです。
3. 必要に応じて各 CMM で手順 1 と 2 を繰り返します。

▼ Web インタフェースを使用してパスワードを変更する

`root` アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。

1. Web ブラウザを開き、CMM の IP アドレスを入力します。
ILOM Web インターフェースのログインページが表示されます。
2. ILOM ログインページで次の操作を行います。
 - a. デフォルトのユーザー名 (`root`) とパスワード (`changeme`) を入力します。
 - b. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
ILOM Web インタフェースが表示されます。
3. 左側のナビゲーションペインで「CMM」をクリックします。
4. ILOM Web インタフェースで、「User Management (ユーザー管理)」--> 「User Accounts (ユーザーアカウント)」を選択します。
「User Account Settings (ユーザーアカウントの設定)」ページが表示されます。

図 4-1 「User Account Settings (ユーザーアカウントの設定)」 ページ



5. 「User Account Settings (ユーザーアカウントの設定)」 ページで、「root」の横にあるラジオボタンを選択し、「Edit (編集)」をクリックします。
セキュリティメッセージが表示されます。
6. 「OK」をクリックして続行します。「User Account Password (ユーザーアカウントパスワード)」ダイアログボックスが表示されます。

図 4-2 「User Account Password (ユーザーアカウントパスワード)」ダイアログボックス

The password must be 8 to 16 characters, which are case sensitive. Use any characters except a colon or space.

User Name: root

Change

New Password:

Confirm New Password:

Role: Administrator

Save Close

7. 「User Account Password (ユーザーアカウントパスワード)」ダイアログボックスで次の手順に従います。
 - a. 「Change (変更)」を選択します。
 - b. 「New Password (新規パスワード)」フィールドに新しいパスワードを入力します。
 - c. 「Confirm Password (パスワードの確認)」フィールドに新しいパスワードをもう一度入力します。
 - d. 「Save (保存)」をクリックします。

root 管理者アカウントの新しいパスワードが有効になります。
8. 必要に応じて、設置されている CMM ごとに、この手順に従ってパスワードを変更します。

次の作業

Sun Blade 6048 シェルフごとにネットワーク情報を設定すると、サーバーモジュールでオペレーティングシステムを設定できるようになります。詳細は、Sun Blade 6048 モジュラーシステムに設置されているサーバーモジュールのドキュメントを参照してください。

索引

A

AC 電源インタフェース 20 ~ 21

I

ILOM → 「Integrated Lights Out Manager」を参照

Integrated Lights Out Manager (ILOM) 26 ~ 32

set コマンド、CMM、オプションの表 31

事前設定の管理者アカウント

root パスワードのリセット 32

ログイン 27

割り当てられたネットワーク IP アドレスによる
システム通信 32

IP アドレスの割り当て、初期 27 ~ 32

DHCP 割り当ての IP アドレス 29

前提条件 28

N

Network Express Module (NEM)

サーバーモジュールの接続 17

シャーシスロット 17

仕様 6

設置 12

ローカルエリアネットワークへの接続 17

P

PCI ExpressModule (PCI EM)

サーバーモジュールの接続 18

シャーシスロット 18

仕様 6

設置 13

データネットワークポート 18

ローカルエリアネットワークへの接続 18

R

root アカウントのパスワード 33

か

関連ドキュメント vi

さ

サードパーティーの Web サイト vii

サーバーモジュール

DHCP IP アドレスの設定 29

Network Express Module (NEM)、接続 17

PCI ExpressModules (PCI EM)、接続 18

サポート情報 vi

シャーシ

最初の電源投入 22

電源の接続 20 ~ 21

パッケージングおよび開梱 5

モジュールとオプションの追加

Network Express Module (NEM) 12

PCI ExpressModule (PCI EM) 13

シャーシ監視モジュール (CMM) 14

モジュールの接続

Network Express Module (NEM) 17

PCI ExpressModule (PCI EM) 18

シャーシ監視モジュール (CMM)

IP アドレスの設定

DHCP による割り当て 29

set コマンド (ILOM)、オプションの表 31

前提条件 28

ローカルエリアネットワークへの接続 16

出荷 (納入パッケージの内容) 5

静電気、防止 7

設置

Network Express Module (NEM) 12

PCI ExpressModule (PCI EM) 13

シャーシ監視モジュール (CMM) 14

た

電源ケーブル、AC 電源インタフェースへの接
続 20 ~ 21

電源投入、最初 22

ドキュメント、関連 vi

トレーニング情報 vi

な

ネットワーク情報、設定→「Integrated Lights Out
Manager (ILOM)」を参照

は

ハードウェア設定、管理→「Integrated Lights Out
Manager (ILOM)」を参照

表記上の規則 vii